アロ

# 『走れ勇者』寝坊した勇者，急いで裁判邸に向かう。レメデや高位裁判官についての説明。

**遅刻だ！！！**

あなたは民宿のベッドから飛び起きた。掛け布団が腕からずり落ち，年季の入った床に舞い落ちる。差し込む光が目を射るように鋭く，壁の時計の針は曲がっているのだろうか？

そうだ，昨日酒場のいつメンにのせられて，「極☆麦★獄」を一気飲みして…

一気飲みして…それから…どうやって帰ったんだ…？？

はぁ…　(･ω･｀｡)

**って違～う！！**

やばいやばい，遅れたら新聞の見出しにされる！**急げっ！！！！！！**

壁の時計の針はいつのまにかまっすぐになったようだ。

［画面の下で勇者が走る。残り秒数が減っていく中，キーを連打して時間の減りを遅らせる。］

や，やったか…？

よ，よし，息を整えて…

こんにちは～～！！（爽やかスマイル）

おはようございます！皆さん203でお待ちですよ！

あ，あ，オハヨウゴザイマス。こちら，証明書になります。

はい，確かに受け取り…ん？なにか挟まってますね

小さい金属の歯車が机に落ちた。

「ポケットワープポイント：これを使うと裁判邸の正面玄関にワープします。レメデの中なら何回でも使えます。」

・・・

・・・（こいつ寝坊したな）

で，ではさっそく行ってまいります！ありがとうございました！

はぁ…　(･ω･｀｡)

レメデーーー人間の領土の中で最大の要塞都市。最大というかこれだけしかないのは内緒。「要塞」とついているが，都市が広すぎるので裁判邸地区の周囲に城壁があるのみである。

高位裁判官―――レメデの統治集団。世襲制だが権力争いを避けるため，一人の子供までしか持つことを許されていない。裁判邸で裁を開催し，この都市に遍くあらゆる不正を暴く。

# 『ミグルとヨル』アロのもろもろの悪行を伝えられ，アロを倒す命を受ける。高位裁判官がみんな小柄なことに違和感。仲間を集める。

重々しい音を立てて，扉が開く。目をそらしたくなるほど絢爛な装飾のほどこされた扉は，そのすぐ横にある壁と切り離されているかのようだ。

ようこそ，「天照の光黎」［プレイヤー名］よ。

は，はい。（今日の二つ名は個人的に好みだな。）

最近調子はどうかね？

…すこぶるいいです。（なんか前会った時より小柄になってるような…？）

そうかそうか，それはなによりだ。

どうでもいい会話が二言三言と交わされる。しかし彼らは無駄な時間を愛さない。時は金なり，そしてそれを決めるのは彼らだ。

さて，今日来てもらったのは他でもない…

―――彼女を殺せ。―――

！！

「彼女」とは…確か…

［１文字目と２文字目の言葉を総当たりで組み合わせる。］

それは…「アロ」のことですか…？

そうだ。私たちの地治史の調べによると，レメデの最縁部にある村から人が消えているそうだ。

アロはおそらく…レメデに侵攻するために，兵力を増強しているのだろう。ついでに最近起こった地震とか竜巻もきっとアロが起こしているに違いない。

彼女を殺せ。

・・・・・・・・・

ふぅ…

アローーー魔族の王，略して魔王。３年前に先代魔王から位を引き継いだ新参の存在。

どのくらい強いんだろ…　とりあえず自分一人では無理だろうな。

あいつら，来てくれるかな…

どちらから尋ねますか？［ミグル/ヨル　※どちらか片方との会話しか見れません］

［ミグル］

ここはレメデの中で最も熱狂，喧騒，そして欺瞞にあふれた場所。曲がりくねーーー

**オーマイゴーッッッド！！**

…ミグルだ。あなたは路地の奥に位置する，ほの暗い酒場のドアを開けた。

おや，君か。久々だね。何か飲んでくかい？

いや，今日はこいつに用があるんだ。

あなたは床にじゅうたんのようにうつぶせているものを指さした。

今日はどうしたんだ？

…負けた…

いくら？（圧）

…

…（髪をつかんで笑顔で顔を覗き込む）

…75。

リルか？

いや，キリルです。

※日本円に換算すると，1リルは23円，1キリルは529円です。

よし，お前が相変わらず社会の底辺をさまよっているのはよくわかった。だから今日は「取引」を持ってきたんだ。

はい，なんでしょう。

急用の依頼が入ってな，日給200リルでお前を雇いたいんだ。どうだ？

ミグルは急に活力を取り戻し，床から跳ね上がった。この会話はいつもの常套句。胸の躍るような冒険は，いつもこの言葉から始まった。

な～んだ，水臭いな！俺とお前の仲だろ？任せろ！1年でも一緒についてってやるぜ！で，ヨルも「雇ってる」のか？

これから声をかけるとこだよ。でも最近は暇すぎて新聞のクロスワードにはまってるらしいから，多分来てくれると思う。

今回はアロを倒すのが目的だ。じゃ，準備ができたらヨルの家で会おう。

おう，誰だか知らんが俺たちはグリーンドラゴンを倒したこともあるからな！今回もおいしい依頼だぜ！

※おそらくミグルは，毒と麻痺と盲目の罠に全部ひっかかった状態で戦ったスライムキングのことを，グリーンドラゴンだと思い込んでいます。そもそもグリーンドラゴンは存在しません。

その後，ヨルもついてきてくれることになって，あなたは今回の旅に手ごたえを感じた。今回の旅は間違いなくこれまでで一番難しくなるだろう。しかし，あなたたち３人はこれまで巡り巡る星空の下，空の上から地の下まで，夢が瞳に溶け経験が記憶になるまで，無数の旅を重ねてきた。

―アロが誰か知らないミグルの説得は，ヨルに任せよう…

［ヨル］

裁判邸を出て北の城壁を越えると，沈黙が大気を支配する。ヨルの家に行くには…

［二択の問題（雑学）を10問出す。

例：囲碁の盤面の総数は10の何乗でしょう？

まずは左の路地に入る：18　川を渡る：180

正解以外の扉に入ると最初に戻る。］

ここだ。

前見たときは真っ白な壁が空によく映えていた気がしたんだが…あいつ掃除サボってんな。

合鍵で中に入る。寝室に入ると，ヨルはなぜかベッドにもたれかかって眠っていた。まだあどけなさの残る顔は，呼吸に合わせてゆっくりと動いている。

**おはようございま～～す！！**

目を覚ましたようだ。ヨルはあなたの姿に気が付くと，ギザギザの歯をのぞかせてにっこりと笑った。

久しぶり！元気そうで何よりだよ。

彼女は暇を持て余しすぎて，最近は新聞のクロスワードにはまっているらしい。だからこんなに散らかっているのか？いや，もともとずぼらだからだろう。

実はまたヨルの助けが必要になって…

うんうん

（かくかくしかじか　←この表現便利だよね）

ヨルは大きく衝撃を受けたようだ。眠気の残っている目を大きく開き，左右で明るさの違う瞳に部屋の照明が反射している。

アロが…レメデに侵攻…？

でもそっか，それなら倒すしかないよね…

ヨルは少しの間逡巡し，そして心を決めたようだ。

わかった，私も同行する。

よし，ありがとう！でもその前にやらなきゃいけないことがあるよな？ ^^

え？（恐怖）

**部屋の掃除だよ！！！**

日が沈んだ頃，あなたは酒場に行きミグルを引っ張ってきた。今回の旅は間違いなくこれまでで一番難しくなるだろう。しかし，あなたたち３人はこれまで巡り巡る星空の下，空の上から地の下まで，夢が瞳に溶け経験が記憶になるまで，無数の旅を重ねてきた。

―ミグルの最初のミッションは掃除の手伝いになるだろう…

# 1-3　最初の村で装備を整える。ヨルの歯はギザギザらしい。

# 1-4　魔族の領地に足を踏み入れる。戻らずの洞窟に入ってレア装備をゲットする。洞窟守と話して少し心情変化。

# 1-5　食料がなくなったので魔族に変装して村に潜入。一緒に祭りの準備をすることになった。仲間との絆が深まる。

# 1-6　村を出る前夜，村長に人間だと知っていると言われる。「君たちならあの子と話し合うに値する」

# 1-7　魔王城に到着，広間に誰もいない。ヨルが正体を明かす。

# 1-8　ヨル（＝アロ）の回想。アロは勇者と仲良くなれないかなと思い，ヨルになっていた。アロは勇者が自分を倒しに来ると知って，自分が人間に嫌われていると思いめちゃくちゃ落ち込む。勇者の行動を観察したくて旅に同行するが，旅が終わったら即効逃亡するつもりだった。

# 1-9　「大輪の鱗月」についての説明。しかしアロは居心地のいいパーティーで過ごすうちに，だんだんと考えが変わってくる。

# 1-10　戦闘が始まる。あっさりと勇者が勝利。目を閉じたアロの前で，勇者はアロが手を抜いたことを直感。地下牢獄にアロを運び，監禁する。ミグル「大丈夫，彼女はきっと逃げない」

# 1-11　図書室に向かうとベイリンに遭遇。本能的に絶対勝てないと悟る。「アロか？あの子はいい子じゃ。」先代魔王に憧れて頑張っていること，ベイリンを救ったことをべらべらと喋る。あれ，言われたことと違くね～？

# 1-12　地下に戻り，おとなしく待っていたアロと話す。アロは口下手で，勇者，そして人間にどう接したらいいのかわからないとだけ告白する。

# 1-13　ベイリンと共に魔王城に泊まり，文献をあさる。「瘴気は生物の体を縮ませる」これだ！

# 1-14　ベイリンを口車に乗せ，瘴気の沈降ルートを計算させる。ベイリンが泣きながら徹夜して計算を完了する。

# 1-15　裁判邸が沈降ルートにかぶさっていると判明。勇者，ミグル，アロ，ベイリンはレメデの法律を利用して，「決闘裁」を申し込むことにした。レメデの一大ニュースになる。

# 1-16　朝早くから決闘裁が始まる。裁長（さいおさ）が全員高位裁判官なため，捏造だと言われ負けそうになる。しかし傍聴していた民衆が「この裁は不正だ！」と叫ぶ。

# 1-17　裁判邸で殴り合いが始まる。「黙れ！私の一族はお前の初代に『原初の恥ずべき』借りがあるのだ！お前が死んでくれれば…！！」争いの苦手なアロが本気を出して即効鎮圧する。アロ「実はいい方法がある。」アロは高位裁判官の瘴気を全て吸収する。

# 1-18　高位裁判官の言う借りは瘴気の影響によるものだったらしく，アロが吸収したことで，高位裁判官たちはなぜ魔王がここにいるのかと驚く。夕方になり，アロたちは民衆の笑顔と祝福に包まれながら裁判邸を後にする。（暴動が起こったので，決闘裁は無効になり，和解という形になった。）

# 1-19　アロが意外とすごい事に気づく。アロは気恥ずかしそうだ。アロが瘴気を吸収して大丈夫なのか尋ねると，過去にも吸収しているらしい。そして自分に呪いをかけているそうだ。アロの主張を無視して，勇者たちは魔王城（『ダム』というらしい）に留まり，アロの瘴気を浄化する方法を探すことになる。